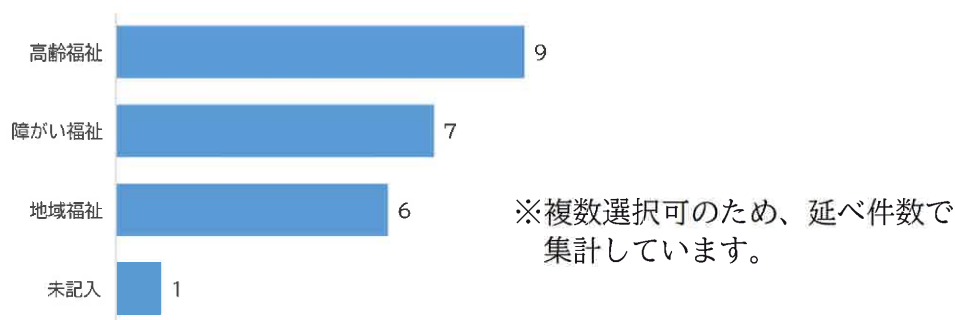


3 附属機関等合同会 アンケート結果概要

1 実施概要

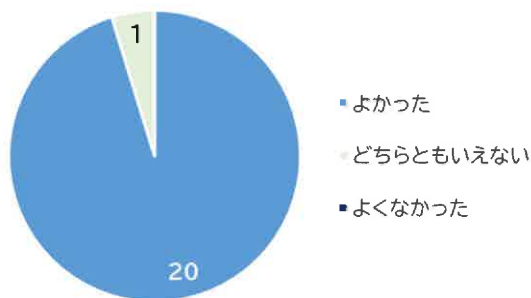
項目	内容
会議名	芦屋市福祉計画 3 附属機関等合同会
開催日	令和 8 年 5 月 29 日（金）午前 10 時から正午
会場	芦屋市役所 東館 3 階 災害対策本部オペレーションルーム（大会議室）
対象となる 附属機関等	芦屋市社会福祉審議会地域福祉部会 芦屋市障害者（児）福祉計画及び芦屋市障害福祉計画・障害児福祉計画策定委員会 第 11 次芦屋すこやか長寿プラン 21 策定委員会
議題	分野を問わず一緒にできたらいいな、連携が進めばいいなと思うこと
グループワーク テーマ	1 権利擁護・意思決定 2 社会参加・地域づくり 3 世帯丸ごと支援（ケアラー・多機関協働）
アンケート回答数	21 件（出席者 34 名）

2 回答者の所属分野



3 合同会への参加について

(1) 「合同会に参加してよかったですか？」



(2) 「よかった」主な理由

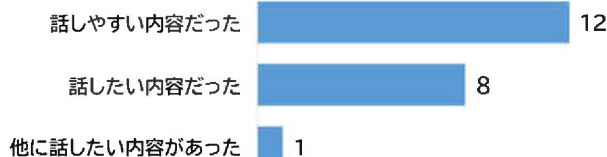
- ・市民委員として意見を述べる機会が得られた。
- ・視野が広がり、今後の活動の参考や新たな学びになった。
- ・普段関わる機会の少ない他分野の委員や関係者と意見交換ができ、統合の計画策定では必要と感じた。
- ・地域福祉、障がい福祉、高齢福祉それぞれの立場や役割、課題を知ることができた。
- ・分野を超えた話し合いにより、横のつながりや顔の見える関係づくりにつながった。
- ・3 計画の統合に向けて、共通認識や方向性を持つ機会となった。
- ・少人数で自由に話し合える雰囲気があり、発言しやすかった。

(3) 「どちらともいえない」主な理由

- ・平日午前の会議だったので、行政と一部の市民しかおらず、サービス提供者（訪看や医師会等）の意見が入らないワークは、実現可能な計画設計にならない。

4 グループワークのテーマ設定について

(1)「グループワークの3つのテーマの設定はどうでしたか？」



(2) 主な意見

- ・3つのテーマは相互に関連しており、実際の支援現場にもつながる内容であった。
- ・福祉全体を俯瞰する内容で、どの角度から入っても3つのテーマに行き当たる内容であった。
- ・普段の業務や活動で感じている課題と重なる内容であり、話しやすかった。
- ・3計画の統合にあたって骨格となるテーマであることが理解できた。
- ・権利擁護、社会参加、世帯まるごと支援はいずれも関心の高いテーマであった。
- ・テーマが大きく、話が広がりすぎた面があった。
- ・3つのテーマは関連が深いため、テーマを絞らず、もう少し時間をかけて話し合いたかった。
- ・社会参加や地域づくりを扱うなら、生活支援コーディネーターの参加を検討してほしい。
- ・身寄りのない成人、特に児童養護施設卒業生へのバックアップについても話したかった。
- ・権利擁護は、進め方によっては周囲の反感を招く恐れがあるため、慎重さも必要。

5 今後の3計画統合に向けた期待・意見

分野を超えた連携・横のつながりへの期待	・縦割りからの脱却の一步として期待する ・地域福祉、障がい福祉、高齢福祉の垣根を越えた情報共有や連携が進むことを期待する ・横のつながりができれば、市民にとっても相談しやすくなる ・各分野の専門性が薄まることなく、交わっていくことが理想である ・縦割り行政の良さを活かしながら、横串を通す方策を芦屋らしく進めてほしい
相談しやすい仕組み・窓口づくりへの期待	・誰も取りこぼさない窓口の開設を期待する ・相談者と同じ目線で話を聞き、適切な担当者につなげる橋渡し役がいることが望ましい ・高齢者、障がいのある人、こどもなどの区分に捉われず、必要な情報やサービスにつながりやすい環境づくりを期待する ・身寄りのない高齢者の終活について、行政としてのシステムづくりを期待する
情報共有・情報発信の充実	・福祉に関する情報や活動が、まだ十分に知られていない部分がある ・市民や関係者にとって、どこに相談すればよいのか、どのような制度や活動があるかが分かりやすく届く仕組みが必要である ・関係者同士でも、他分野の活動や取組を十分に把握できていない現状がある ・市の広報等による情報発信に加え、分野を超えた情報共有の機会が増えることを期待する ・計画の統合について、その理解やメリットが伝わるよう、計画本文でも丁寧に説明してほしい
支援を必要とする人を取りこぼさない仕組み	・制度の隙間で取り残される人がいないようにしてほしい ・支援を必要とする人を把握し、必要な支援につなげる仕組みづくりが必要 ・引きこもりの人が自ら外に出てこられるような仕組みづくりを考えたい ・こどもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、すべての人がつながりの輪の中で安心して暮らせるまちを目指してほしい
実効性・具体的な仕組みづくりへの意見	・現場の課題解決や連携、具体的な仕組みづくりまで踏み込んでほしい ・理想的な取組だけでなく、根拠法や制度の違い、人員・財源などの現実的な制約も踏まえた議論が必要 ・統合によって合理化され、削られる部分がないようにしてほしい ・統合により、住民の福祉が向上する施策が実行されることを期待する ・介護・看護・医療従事者など、地域でサービスを提供している関係者が協議に入ることを求める ・少子高齢化が進む中、課題には選択と集中が求められる ・行政に頼るだけでなく、障がい当事者も高齢者も地域で互いに支え合う意識が必要である ・理念の共有に加え、サービス量等の具体的な内容についても議論時間を確保してほしい
芦屋らしい福祉のあり方への期待	・3計画が、共通の理念を基に進められることで、よい形になることを期待する ・市民の協力と柔軟な行政の連携により、新しい福祉のあり方を模索してほしい ・性格、好み、考え方が異なる一人ひとりに合わせ、受け入れられ、楽しいと思える取組になることを期待する ・誰もが地域の一員として安心して暮らし続けられる芦屋市になることを期待する ・芦屋らしい形で、分野を超えた福祉の取組が進むことを期待する